2021 年度法学検定試験 合格体験談

ベーシック〈基礎〉コース

法学の初学者でも気軽に

私は北海学園大学法学部の１年生で，法学検定試験のベーシック〈基礎〉コースを受験しました。この試験の存在を知ったのは，大学に入学してすぐの頃です。学内で配布されていた資料を見て比較的早くに受験することを決めました。受験の理由は，司法試験やそれ以外の士業のような本格的な法律の試験とは別に，法学の初学者であっても簡単にその能力をはかることのできる点に魅力を感じたからです。

勉強方法は，大学生協で申し込むことのできる学外講座を受講しました。オンラインで，時間のある時に何度でも見直せるので，自分の予定に合わせて視聴することができました。

勉強を本格的に始めたのは大学が夏休みに入った８月からです。学外講座自体は６月から受講することができましたが，夏休みに入る前は大学の普段のオンライン授業に重点を置いていました。しかし，そのような時から，法学検定試験の問題集や，学外講座のテキストをいつも持ち歩き，通学時間や，出先などで時間が余った時には目を通すようにしていました。ですから，毎日何時間も勉強時間を確保するというよりも，隙間の時間を見つけては，少しずつ少しずつ知識を積み重ねていく勉強をしていました。本番２週間前からは，すべてのオンライン講座を再度見返し，問題集とテキストを何度も読むという形で，知識を完成させていきました。

法学検定試験は，初学者からでも試験を受けられるということはもちろん，普段の講義の理解にも役立つものであると実感しています。講義や小テストなどにおいても，試験勉強で学んだ内容が出題されることもあり，自分の弱点の発見や，総復習に非常に有意義なものになったと思います。

機会が許せば，スタンダード〈中級〉コースなどさらに上級のコースを受験してみたいと考えています。少しずつではありますが，法学の知識を初学者ながら深めていけたらと思います。

（最優秀賞・淀川修人さん 19 歳・北海道）

法曹への第一歩として

今回は，学部１年次から２年次までの学習到達度を確認するとともに，北海道大学法学部法曹コースに所属しているため，同コース所属者が対象となる同大学のロースクールの推薦入試（５年一貫型教育入試）で客観的に実力を示す目的で，ベーシック〈基礎〉コースを受験しました。また，グループ受験ではありませんでしたが，法科大学院，そして司法試験合格という同じ目標をもつ学部のゼミのメンバーも一緒に，法学検定試験を受験しました。

勉強は，試験の１ヵ月前から始めました。勉強法としては，まず法学検定試験委員会の公式問題集で過去問ないし本試験と同形式の問題を解き，実力をはかりました。そして，実定法科目（憲法・民法・刑法）については，今まで知らなかったあるいは忘れていた判例・学説が出てくるたびに『判例百選』などの判例集や手持ちの基本書に戻って確認し，答えや結論の暗記にとどまらない，理由づけを意識した学習へと発展させました。そうすることで，初見の問題であっても，論理的に考えて正答にたどり着くことができるようになるとともに，論述問題にも通じる実力が養われたと考えています。その後，改めて公式問題集を解くことで，実定法科目の知識を完璧にすることができました。

反対に，法学入門についてはこのような学習法を行うことができず，少し苦労しました。しかし，公式問題集を中心に復習を繰り返し行うことで，十分に知識を定着させることができたと考えています。

今後の目標としては，まず前述の法科大学院の推薦入試，学部３年生向けの実定法科目の論文式問題による入試（開放型入試）を目標に，ベーシック〈基礎〉コースで受験した３科目に加えて商法・会社法，３年生で履修する民事訴訟法の学習に努めたいと考えています。そして，通過点として行政書士試験の合格，最終的には司法試験合格し法曹になることを目指し，丁寧さを忘れずに法律の学習を続けていきたいと思います。

（優秀賞・山下智史さん 20 歳・北海道）

スタンダード〈中級〉コース

法律の勉強をもう一度

私は以前に法科大学院を卒業したのですが，司法試験を断念し，現在は地方公務員として市役所に勤務している者です。最近は主に契約事務に携わっていたのですが，令和２年度の改正民法施行もあり，民法や地方自治法など関連法令の知識を実務で問われることが多く，改めて法律の勉強の重要さとともに面白さも実感していました。法学検定試験に興味をもったのは去年の９月下旬です。現在の自分がどの程度基本法に対する知識をもっているか，また仕事にいかせているかを客観的にはかるための良い機会だと考えたので，この度受験させていただきました。

勉強法についてですが，条文や主要論点についての通説・判例など基礎的な理解はおそらく大丈夫だと思ったので，スタンダード〈中級〉コースの公式問題集を一通りこなして間違った部分の解説を読み，理解と知識の習得をしてからもう一度すべての問題を最初から解いてみる，といったことを繰り返しました。また，何度も同じ点を間違えてしまう場合には，自分の感覚と制度趣旨との間に溝があると思ったので，なぜこのように規定され，解釈するのかをもう少し深く調べてみたりもしました。久しぶりの択一式で最初は１問１問を解くのに時間がかかったのですが，解き進めるうちに思い出したり，考えたりという時間が短縮され，試験直前には１問につき１分もかからずに解答できるようになり，知識の定着を感じることができました。

試験当日にあっては，これまた久しぶりの受験ということで，会場の独特の雰囲気に少し緊張しましたが，実際の試験問題は問題集で見慣れていたこともあり，リラックスして解けたと思います。不安の残る箇所をチェックしながら全問を解いた後，チェックした箇所についてさらに時間をかけて見直したのですが，いくつか誤っていた箇所を見つけて修正できました。仕事でもダブルチェックは重要ですが，こういった試験でも一呼吸おいて，できる限り視点を変えて見つめ直すと良い結果につながるものと考えました。

合格はできると思っていたのでエクセレント合格を目標にしましたが，まさか最高得点をとれるとは思わなかったので非常に驚きました。今回受験したことで改めて身についた基本法の知識を，理解度を落とさぬまま今後の仕事にいかしていけるよう継続して勉強していきたいと思います。そして機会があれば，次回はアドバンスト〈上級〉コースに挑戦してみたいと考えています。

（最優秀賞・中山一郎さん 38 歳・北海道）

アドバンスト〈上級〉コース

国家試験・資格試験の模試の 1 つとして

他の国家試験の模試の代替として受験しました。法学検定試験は初受験でしたが，アドバンスト〈上級〉コースに合格し，優秀賞で表彰されることとなりました。合格後に表彰制度があることを知ったため大変驚きました。表彰していただきとても感謝しております。コロナの影響もあり 2021 年度の表彰式が，例年のように対面式での表彰式ではなく，オンラインとなってしまったことは残念でなりません。

私は特別に法学検定試験のための勉強はしませんでした。他の資格試験の勉強をされている方でも十分に対応できる内容です。スケジュール的に問題がなく，国家試験の過去問だけでは演習が足りていないと感じているようであれば，法学検定試験の受験を選択肢に入れてみてはいかがでしょうか。アドバンストコースは，当日に試験場で，選択科目を選べるのも魅力です。法律系の資格試験のなかで，このような試験は珍しいと思います。次回受験する機会があれば，別の選択科目でも合格できるよう，幅広い知識を身に着けることができればと思案しています。

この度は表彰ありがとうございました。

（優秀賞・茂木大郎さん 28 歳・群馬県）

暗記という学習方法からの脱却

昨年秋，法科大学院を卒業し，2022 年 5 月の司法試験に向けて，日夜，学習に励んでいます。

私は大学時代に一度，アドバンスト〈上級〉コースを受験しましたが，結果は残念なことに不合格でした。その原因を考えてみると，当時は法の規定や趣旨の「つながり」を意識することなく，暗記に頼っていたことにあったと思います。アドバンスト〈上級〉コースの問題は，法の規定や趣旨を確実に理解している前提で，そこから応用して解答を導くことが多いため，問題に対応する力が不足していたと思います。

法科大学院に入学した当初も，暗記に頼った学習方法を続けていました。大学院の講義も，基礎的な法的知識を理解していることを前提で進められるため，単に暗記をするだけでは定期試験で良い結果が得られないことがわかりました。そこでその後は，個々の法律の規定や趣旨との「つながり」を意識した学習方法に転換することにしました。

これまでの学習方法を大きく変えるものだったこともあり，当初は，学習が進まないこともありました。しかし，根気強く継続していくことで，暗記に頼った学習方法で取り組んでいたときよりも，学習がスムーズに進むようになり，法的知識を一層深めることができました。

また，その成果が実を結び，アドバンストコースに合格することができました。さらに「優秀賞」という素晴らしい結果を得ることもできました。暗記に頼らない学習方法が必要だと気づく機会を与えてくださった，法科大学院の先生方やともに学んだ友人等に心より感謝します。

一方，満点ではなかったという結果に対しては，自らの学習課題が明確になったので，今回の結果を今後の学習にいかし，司法試験合格という大きな目標に向かって，弛まない努力を続けていきたいと思います。

最後に，法学検定受検試験は，自らの学習方法について再考する機会を与えてくれる貴重な体験となると思うので，自分の学習方法が適切かどうかを確認したいという方には，受験することを強くお薦め致します。

（優秀賞・百田圭吾さん 25 歳・福岡県）

司法試験予備試験の準備として

受験を決めたのは，昨年の司法試験予備試験論文式試験の合格発表で，その不合格を知った後でした。正直なところ，論文式試験受験後は気が抜けてしまってほとんど勉強することができなかったのですが，何とか前に進むために近い時点での次の目標を見つけなければと思いました。しかし，冬の時期の法律系国家資格試験は少なく，また，時期的に唯一受験可能だった行政書士試験にもすでに合格していたため，民間の検定試験を受験することに決めました。

法学検定試験を選択した理由には，受験科目が司法試験の科目とすべて重なっていること，法学検定試験委員会委員の先生が著名な先生ばかりで良問がそろっているとの評判があったことなどが挙げられますが，最も大きかったのは，破産法などの司法試験の選択科目があったことです。2022 年から予備試験の論文式試験にも選択科目が導入され，破産法を含む倒産法を選択することにしました。そこで試験対策を通じて破産法の知識を定着させるいい機会だと思い受験を決めました。また，受験後に自分の順位が明確に通知されることも良いモチベーションになり，せっかくなら 1 位をとりたいと思いました。

今回選択科目として，自分が最も得点率の低そうな民事訴訟法と破産法を選択しました。合格を目指して最も得点できそうな科目を選択することができる一方，このように腕試しとして自分の苦手な科目を受験することで，実力の底上げにつなげることができるのも，この試験の良いところだと思います。

勉強方法としては，とにかく基礎的なテキストを読み込むことを重視しました。問題演習は，そのテキストの知識を定着させる，ないし知識が定着しているかを確認するために行いました。これは個人的に，法律の知識というのは多面体のようなイメージがあり，過去問は，一つの知識というその多面体の一つの面を聞くものが多く，過去問のみによって知識を得ようとすると，その多面体を立体的にイメージすることができなくなってしまうからです。そこで，テキストを用いて知識を立体的にイメージし，それを有機的に繋げていくことこそが，このような択一式の試験に合格する近道だと思います。もし，同じ知識を問う問題なのに過去問と少し違うと間違えてしまう，という人にはこのやり方をお勧めしたいです。

直近の目標としては，今年こそは予備試験に最終合格することです。また，法学検定試験も次回は満点で合格したいです。

（優秀賞・大川未来さん 23 歳・兵庫県）

法律の知識を深めたい方へ

法律の知識をアップデートし，理解を深めるために，法学検定を受験しました。法学検定を通じて，時代の変化に合わせて改正される法律や示される判例の考え方を追うことや，法律論に対する理解を深めて新しい発見をすることができました。

（優秀賞・橘川文哉さん 24 歳・静岡県）